

第1学年 国語科学習指導案

児童：1年3組 男子18名 女子14名

指導者：三澤洋子

(すこやかサポート：佐々木幸子)

1 単元名 こえにだしてよもう 教材名 「くじらぐも」

2 単元について

(1) 教材について

本単元「こえにだしてよもう」は、登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむことをねらいとしている。

本教材「くじらぐも」は、体育の時間に校庭で体操をしていた1年生の子どもたちの前に、雲のくじらが現れるところからお話が始まる。子どもたちとくじらぐもは、一緒に体操をしたり、呼び合ったりする。そして、「ここへ、おいでよう。」というくじらぐもの言葉に誘われ、子どもたちはくじらぐもに飛び乗り、一緒に大空を旅するというお話である。現実の世界から空想の世界へという巧みなストーリーの中で、子どもたちは、登場人物と一緒に大空を旅する楽しさを味わうことのできる作品である。

文章は、5つの場面構成されている。どの場面にも生き生きとした挿絵が描かれ、文と挿絵から場面の様子を想像しながら読み進めることができる。また、主述がはっきりしていて会話文も多く、声に出して読みながら会話の対比のおもしろさや気持ちの高まりなどを想像し、物語を楽しむこともできる。

以上のことから、登場人物に同化しながら、登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむことに適した教材であるといえる。

(2) 子どもの実態

入学して半年、子どもたちはこれまでに、「はなのみち」「おむすびころりん」で挿絵と文を結び付けたり、登場人物になって動作化したりしながら場面の様子を想像する学習をしてきた。また、「大きなかぶ」では、場面の様子を想像しながら音読し、繰り返すにより山場へと高まっていくお話の展開や、言葉のリズムを楽しんできた。

これらの学習を通して、挿絵や文を手がかりにして、場面の様子や登場人物のしたことを想像しながら音読したり、想像したことを吹き出しに書いたりすることのできる子どもが増えてきた。

本校の研究内容である「教材文とのかかわり」では、叙述に即して文章を読み取ることができるよう、大事な言葉や会話文にサイドラインを引くこと、正しく丁寧に視写すること、そして、音読や動作化を取り入れながら想像を膨らませ、吹き出しに書きまとめる学習を行っている。音読では、姿勢や口形などに気を付けて、はっきりした声で読むこと、拾い読みでなくひとまとまりの語や文として読むことを指導している。

また「友達とのかかわり」では、友達の考えをしっかりと聞く・みんなに伝えるということを繰り返し指導するとともに、ペアでの音読・インタビュー・〇〇紹介なども行いながら、相手意識をもつことができるよう取り組んでいる。短い内容であれば、話型を提示すると、ほとんどの子どもがそれに沿ってインタビューをすることができるので、相手の話に一言返してあげるところまでできるよう指導している。

(3) 指導にあたって

①教材文とのかかわり

学習計画の段階においては、今まで見た雲について交流したり、実際に外に出て雲を見て自由に想像を膨らませたりしながら本教材に出会わせることで、興味をもって読み進められるようにする。そして、挿絵に題を付けてあらすじを押さえ、好きな場面を見つけたりおもしろかったところを紹介したりする中で、お話に出てくる1年生になって場面の様子を想像しながら読み進めること、最後にくじらぐもに手紙を書くことという学習の見通しをもたせるようにする。

課題追究・課題解決の段階においては、子どもたちとその真似をするくじらぐものおもしろさを読み取ることができるように「・・・が」「・・・は」「・・・も」の3つの助詞に気を付けて読ませ、くじらぐもと子どもたちの行動や会話をしっかりと押さえ、お互いが結び付いていく様子や心の交流について話し合っていきたい。また、豊かに読み取らせるために、場面の様子や登場人物のしたことがよく分かるところを視写したり、子ど

もたちやくじらぐもの気持ちを想像して吹き出しに書いたりする活動を取り入れていく。場面の様子が鮮明に描けるように劇化も取り入れて、それぞれが書いた吹き出しを交流していく中から自分の考えを深めたり、友達の考えのよさを感じ取ったりさせていきたい。子どもたちとくじらぐもの行動や会話文に目を向けながら、それぞれの登場人物の気持ちに寄り添って想像させていきたい。

単元の終わりでは、自分が見つけた雲の形から想像を広げ、お話作りをしていく。「雲と話したいことを書く」ことができた子どもには、そのお話の続きも考えさせる。作った作品をみんなで交流し合いながら、友達の見つけた雲のおもしろさやお話の工夫について感じるができるようにしたい。

②友達とのかかわり

音読では、役割読みを取り入れて、学級全員が物語の中の登場人物に同化しながら発表できるように目標をもたせる。また、それぞれが書いたことを発表していく中で、「もし、空の旅をすることができたら・・・、くものくじらに乗ることができたら・・・」という夢や願いをもたせて、授業を進めていきたい。そして、授業の中ではペア学習の形態でインタビューをしたり、書いた吹き出しを交流したりする場面も取り入れていく。その際、自分の考えを深めながら、友達のよさも感じ取らせていきたい。

3 単元の目標

観 点	目 標
国語への関心・意欲・態度	・登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しもうとする。
書く能力	・相手（雲）と話したいことを考えて書くことができる。（ア）
読む能力	・文や挿絵をもとに、話の大体が分かり、場面の様子や登場人物の気持ちを想像を広げながら読むことができる。（ウ） ・語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読むことができる。（エ）
言語についての知識・理解・技能	・姿勢、口形などに注意し、はっきりとした発音で話すことができる。 （ア（ア）） ・新出漢字の使い方や言葉の使い方を理解することができる。 （イ（イ））（ウ（イ））

4 単元の指導計画と評価規準（11時間 読むこと8時間・書くこと3時間）

段階	時間	学習の目標 主な学習活動	評価規準（評価方法）		
			国語への関心・ 意欲・態度	書く能力と 読む能力	言語についての 知識・理解・技能
学 習 計 画	1	○ 題名や挿絵から、話の筋やイメージをつかむことができる。 ・今まで見た雲について話し合う。 ・全文を読み、感想を発表する。 ・新出漢字や片仮名の練習をする。	・物語に興味をもち、進んで読もうとしている。 （発言・挙手）	《読む》 ・挿絵や文章から、話の筋の大体を読み取っている。 （発言・挙手）	・新出漢字や片仮名の読み方や書き方を理解している。 （ドリル・音読）
	2	○ 学習計画を立てることができる。 ・全文を音読し、好きな場面やおもしろいところを発表し合う。 ・挿絵に題を付け、学習計画を立てる。 ・新出漢字や片仮名の練習をする。	・好きな場面やおもしろいと思うところを進んで見つけようとしている。 （発言・挙手・カード）	《読む》 ・話の筋の大体が分かり、好きな場面やおもしろいと思うところを見つけ、発表している。 （発言・挙手・カード）	・新出漢字や片仮名の読み方や書き方を理解している。 （ドリル・音読）

課 題 追 究	1	<p>○ 子どもたちとくじらぐもとの出会いの様子を読み取ることができる。</p> <p>・子どもたちの真似をするくじらぐもの様子と、それを見る子どもたちの様子を想像しながら読み取る。</p>	<p>・叙述や挿絵をもとに、子どもたちとくじらぐもの様子を読み取ろうとしている。 (発言・音読・吹き出し)</p>	<p>《読む》</p> <p>・文中の助詞「も」の働きに着目して、子どもたちと真似をするくじらぐもの様子を読み取っている。 (発言・サイドライン・吹き出し)</p>	<p>・漢字や片仮名を正確に読んだり、書いたりしている。 (吹き出し・音読)</p> <p>・正しい姿勢と口形に気を付けて音読している。 (音読)</p>
	2	<p>○ 子どもたちとくじらぐもが声を掛け合い、誘い合う様子を読み取ることができる。</p> <p>・子どもたちとくじらぐもの会話に着目し、その様子を想像しながら読み取る。</p>	<p>・叙述や挿絵をもとに、子どもたちとくじらぐもの様子を読み取り、張り切る様子を想像しようとしている。 (発言・音読・吹き出し)</p>	<p>《読む》</p> <p>・会話文に着目し、子どもたちとくじらぐもが声を掛け合い、誘い合う様子を読み取っている。 (発言・サイドライン・吹き出し)</p>	<p>・漢字や片仮名を正確に読んだり、書いたりしている。 (吹き出し・音読)</p> <p>・かぎ(「」)に気を付けて音読している。 (音読)</p>
	3	<p>○ くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子と、それを応援するくじらぐもの様子を読み取り、くじらぐもに乗れてうれしいみんなの気持ちを想像することができる。</p> <p>・子どもたちとくじらぐもの会話に着目し、その様子を想像しながら読み取る。</p>	<p>・叙述や挿絵をもとに、子どもたちとくじらぐもの様子を読み取り、くじらぐもに乗れてうれしいみんなの気持ちを想像しようとしている。 (発言・音読・吹き出し)</p>	<p>《読む》</p> <p>・子どもたちとくじらぐもの行動や会話から、くじらぐもに飛び乗る子どもたちの様子を読み取っている。 (発言・サイドライン・吹き出し)</p>	<p>・漢字や片仮名を正確に読んだり、書いたりしている。 (吹き出し・音読)</p> <p>・かぎ(「」)に気を付けて音読している。 (音読)</p>
	4 本 4 ／ 5	<p>○ くじらぐもと一緒に空の旅をする子どもたちの様子を想像し、旅を楽しむ子どもたちの気持ちを読み取ることができる。</p> <p>・空の上の様子や子どもたちの会話を想像し、楽しい空の旅を読み取る。</p>	<p>・叙述や挿絵をもとに、くじらぐもと一緒に空の旅を楽しむ子どもたちの様子を想像しようとしている。 (発言・音読・吹き出し)</p>	<p>《読む》</p> <p>・叙述や挿絵から、くじらぐもと子どもたちの楽しい空の旅の様子を想像し、夢が叶い旅を楽しむ子どもたちの気持ちを読み取っている。 (発言・サイドライン・吹き出し)</p>	<p>・漢字や片仮名を正確に読んだり、書いたりしている。 (吹き出し・音読)</p> <p>・句読点を正しく使って書いている。 (吹き出し)</p>
	5	<p>○ くじらぐもと別れる子どもたちの様子を読み取ることができる。</p> <p>・くじらぐもと別れるときの子どもたちの気持ちを想像する。</p>	<p>・叙述や挿絵をもとに、くじらぐもと別れる子どもたちの様子を想像しようとしている。 (発言・音読・吹き出し)</p>	<p>《読む》</p> <p>・会話文に着目し、くじらぐもと子どもたちの別れの様子を想像し、子どもたちの気持ちを読み取っている。 (発言・サイドライン・吹き出し)</p>	<p>・漢字や片仮名を正確に読んだり、書いたりしている。 (吹き出し・音読)</p> <p>・句読点を正しく使って書いている。 (吹き出し)</p>

課題解決	1	○ くじらぐもに手紙を書くことができる。 ・物語を読んで、思ったことや考えたことを手紙に書く。	・くじらぐもに進んで手紙を書こうとしている。 (発言・手紙)	〈読む〉 ・物語を読んで、自分が思ったことや考えたことをくじらぐもにあてた手紙に書いている。 (手紙)	・句読点やかぎを正しく使い、文章を書いている。 ・主語と述語の関係に注意して文章を書いている。 (手紙)
書くことの学習	1	○ いろいろなものに見える雲の形を絵に描き、お話を作ることができる。	・見つけた雲の形から想像を広げて絵を描き、雲とどんなことを話したいか、どんなことをしたいかを考えようとしている。 (作成の様子・カード)	〈書く〉 ・いろいろなものに見える雲を見つけ、自分が考えたことを雲に呼びかけたり、話しかけたりするように書いている。 (作成の様子・カード)	・句読点や助詞「は」「へ」「を」を正しく使い、書いている。 (吹き出し)
	2	・屋外に出て、いろいろなものに見える雲の形を絵に描く。 ・描いた雲から想像を広げ、話したいことやお話を考えて書く。			
	3	○ 見つけた雲から考えたお話を交流し合うことができる。 ・作品を見せながら発表する。	・自分の考えたお話を進んで発表するとともに、友達のお話のよさを見つけようとしている。 (発表・態度)	〈書く〉 ・自分や友達の作ったお話のよさに気付いている。 (発表・態度)	・姿勢、口形などに注意し、はっきりとした発音で話している。 (発表・態度)

5 本時の学習（課題追究4／5）

(1) 学習の目標

くじらぐもと一緒に空の旅をする子どもたちの様子を想像し、旅を楽しむ子どもたちの気持ちを読み取ることができる。

(2) 評価規準

【読む能力】

叙述や挿絵から、くじらぐもと子どもたちの楽しい空の旅の様子を想像し、夢が叶い旅を楽しむ子どもたちの気持ちを吹き出しに書いている。

(3) 展開

段階	学習活動	教師のはたらきかけと評価
課題把握と見通し 4分	1 前時の学習を想起する。	・ みんなで力を合わせたこと、くじらぐもの応援があったこと、そして風が吹いてあつという間にくじらぐもに乗っていたことを想起させる。
	2 本時の学習範囲と学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">くじらぐもと子どもたちは、空でどんなたびをしたのだろう。</div>	・ 本時の挿絵を提示し、場面の様子を押さえ、課題を提示する。
	3 課題解決への見通しをもつ。	・ 空の様子、見たもの、気持ちなどを考えていくことを確認する。
課題追究 26分	4 学習範囲を音読する。 ・ 一斉読 ・ 指名読	・ 語や文のまとまりに気を付けながら、はっきりと音読できるようにし、学習範囲を確認させる。
	5 みんなとくじらぐもの様子を読み取る。 (1)くじらぐもの元気いっぱいの様子と、喜ぶ子どもたちの様子を想像する。	・ 「げんきいっぱい」に着目し、『さあ、およぐぞ。』をくじらぐもになりきって音読させる。

	<ul style="list-style-type: none"> 『さあ、およぐぞ。』 張り切っているくじらぐもと子どもたちになって、音読する。 <p>(2) くじらぐもと子どもたちが行ったところや見たものの様子を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行ったところを見つけてサイドラインを引き、視写する。 「うみのほうへ、むらのほうへ、まちのほうへ。」 くじらぐもの上で子どもたちが話していることを想像する。 (ペア→全体) みんなとくじらぐもの様子を想像しながら音読する。 <p>(3) みんなが、歌を歌ったわけを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを乗せて張り切っているくじらぐもの様子を想像させる。 『さあ、およぐぞ。』というくじらぐもの言葉に子どもたちは何と答えたかを考えさせることで、子どもたちの気持ちを想像させる。 子どもたちの言葉を入れながら、音読させる。 【教材文とのかかわり】 サイドラインを引いた箇所を確認したら、音読しながら、挿絵でも確かめ、丁寧に視写させる。 くじらぐもの上から見えたもの、話したこと、気持ちなどを想像させる。 隣同士で見えたものやその時の気持ちなどをインタビューし合い、それをもとに全体で交流し合う。 くじらぐもの上から見えたもの、空の様子、気持ちなどに分けて板書する。 想像したことを教科書の文章に入れながら、役割読みをさせる。 【教材文・友達とのかかわり】 空の旅をするうちに、楽しくて自然に歌い出した様子を想像させ、空の旅の楽しさを確認する。 【教材文とのかかわり】
<p>課題解決 12分</p>	<p>6 楽しい空の旅の様子をまとめる。</p> <p>(1) くじらぐもから、空の旅の感想を聞かれ、それに答えるという設定で吹き出しを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 楽しい気持ち ② くじらぐもの上から見えたもの ③ 空の様子 ④ くじらぐもの上でやってみたこと など <p>(2) 発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2～3人 <p>(3) 学習場面を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割読みをする。 	<p>【具体の評価規準（方法）と指導の手立て】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>空の旅の様子について、楽しい気持ち(①)と空での様子(②③④などのいずれか一つ)に触れながら書いている。(吹き出し)</p> <p>(例) とってもたのしいよ。ぼくたちのがっこうが、ちいさくみえるよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しい気持ちと一つの観点について書いている子どもには、他の観点でも書かせる。 書くことができない子どもには、板書をもとにどんなものが見えたか、どんな気持ちだったかなど、対話しながら書かせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 友達の発表に共感しながら聞くことができるようにする。 楽しい空の旅を味わいながら音読させる。
<p>まとめ 3分</p>	<p>7 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価をする。 <p>8 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聞くこと、自分の考えを発表すること、よく考えて吹き出しに書くことができたかを自己評価させる。 挿絵を提示し、お別れの様子を読み取っていくことを確認する。

くじらぐも

なかがわ りえこ

四

くじらぐもと子どもたちは、空で
どんなたびをしたのだろう。

「さあ、およぐぞ。」
げんきいっぱい

やったあ。
たのしみだなあ。
空をおよぐなんてすごい。

あおい
あおい
あおい
空の中を

うみのほうへ

ふね さかな

くじらかもめ

むらのほうへ

トンネル たんぼ

いえ ダム

まちのほうへ

でん車 ビル

こうえん おみせ

ふわふわだな

かぜがきもちいいな

ひろいなあ

おひなまがまぶしいな

どこにでもいけるぞ

みんなは、うたをうたいました。

たのしい

空は、どこまでもどこまでもつづきます。